



JAPAN
OUTDOOR LEADERS
AWARD

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 2025

FINALIST STORIES



米田 剛 森のようちえんキンダガーデン 園長 / NPO法人遊山のもり 理事
松木 正 マザーアース・エデュケーション主宰
蟻正 敏雅 一般社団法人と或る農園 代表理事 / 株式会社にまつわるエトセトラ 会長
井上 桂 株式会社FEEL 代表取締役 / エコピアの森下関・深坂 所長
妹尾 望 やんばる案内人 Tida-Smile 代表 / Wilderness Medical Associates Japan アンバサダー
谷 慶子 windsoil 代表 / 高田短期大学 非常勤講師
野田 和規 株式会社白老ネイチャーオフィス 代表取締役

2025
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD

大賞
Grand Award

PROFILE



米田 剛

Yoneda Gou

鳥取県生まれ。2015年、保護者として関わった園が閉園となる事が決まり、事業継承により園長となる。2021年より森のようちえんキングダガーデンとして運営。2024年、卒園生や地域の子どもの居場所となり、家族のようなつながりを大切にしつつ、ダイナミックな自然体験活動を楽しむ為、NPO 法人遊山のもりを設立。

森のようちえんキングダガーデン 園長
NPO 法人遊山のもり 理事

色あせない想い
子ども達の未来を
つなぐ場所



森のようちえんキングダガーデンでは『社会を生き抜く力』を身に付けることを目的として活動しています。毎日の活動をつなぐと線となり、線はやがて子ども達の未来につながります。安心できる人と場所が交ざりあう事で子ども達のやる気やチャレンジを支え、全ての活動が関係しあって目的に向かう日々を過ごします。その為自然の中で活動し『生きる力』を身に付け、充実したカリキュラムで『学ぶ力』を習得する両輪を大切にしています。この両輪が日々



【上段左】冬休み、里帰りの卒園生 【上段右】園舎横に造った『もり』で遊ぶ日常風景 【中段】海での活動前セーフティトーク
【下段左】水中運動会はだかんばんカーニバル 【下段中】園舎の体育館で運動会 【下段右】小学生 森の中でインタープリテーション

バランスよく回り子どもの未来に進む力となり輝くためには、子どもの可能性を信じる大人が寄り添い支える必要があります。私達は子どもの未来を願うという共通の想いを抱き、寄り添う日々を過ごす中で仲間となり、大勢の大人と子どもが家族のようなつながりの中で過ごしています。数々のチャレンジに挑み苦手や困難を克服し、自信と喜びに変えることが出来た日々は、子どもの未来を照らす光となり『社会を生き抜く力』につながると信じています。毎年、

夏休み期間に開催する『里帰り学童』には卒園した多くの小・中学生が帰ってきます。「ここが僕たちの居場所」と話す卒園生の想いを守る為に、NPO法人遊山のもりを設立しました。キャンプや自然体験活動等、バリエーション豊富な体験活動を通じて成長を見守ることが出来る事は、私達の最高の喜びです。

2025
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
特別賞
Special Award

PROFILE



松木 正

Matsuki Tadashi

京都府伏見生まれ。大学時代にキャンプカウンセラーとして組織キャンプに携わる。自身のうつ病克服の経験から、野外教育におけるカウンセリング的アプローチの可能性に目覚め探求を始める。卒業後、大阪 YMCA 六甲研修センターで体験学習法を活用した企業研修や野外教育を実践。さらに本物を求めて渡米し、全米各地で実践されている環境教育プログラムにインストラクターとして関わり、学びを深めていく中で、アメリカの先住民ラコタ族と出会い、居留区の中で教育とコミュニティ活動をしながら伝統文化と儀式を学ぶ。現在、神戸で「マザーアース・エデュケーション」を主宰し、自分を取りまく様々な生命との関係教育 = 環境教育をテーマとし、独自の教育プログラムを展開している。

マザーアース・エデュケーション主宰

ミッションは、
「生命の木」を育むこと

私が長年、人の育みに関わってきて…私自身がたどりついたのが「生命の木」という考え方であり、その存在(being)です。

「生命の木」というのは、この大地の上でこの宇宙の中で立つ唯一無二の存在で、これは人の生きている姿を表しています。

私は、これだけは、責任をもって言える「本当だ」と思えることがあります。

それは、一人ひとりの生命の中に「So, be it!」(そのようになれ!)と人生に働きかける『意志』と、そのようになろうとする『創造の力』が、その本質として宿っていると信じていることです。すべての教育活動(ワークショップやキャンプ)、セミナー・カウンセリングは、この信念の上に立っているのです。

「生命の木」を育むこと…これが私のミッションであり、一人ひとりがその人にしか無いその人だけの人生を主体的に生きて欲しい…それが私の願いです。

「生命の木」は自分を取りまく様々な生命(自然、自分自身、大いなる存在)と深く関わりながら自分を生きる木です。自分に成っていく木(自立する存在)です。私は「生命の木」を育むのです。大自然の中で。



【上段】しのび足の訓練 【中段左】インディアンに伝わる神話の語り 【中段中】160cmに張られた麻ひもを炎で焼き切った瞬間
 【中段右】チカラを合わせてロープに手を伸ばす 【下段左】自分と向き合った炎で麻ひもを焼き切る「火のワーク」 【下段右】子ども達と薪を組む



PROFILE



蟻正 敏雅

Arimasa Toshimasa

岡山県出身。高校中退後、飲食やアパレル業界で働く。大規模な震災や豪雨での災害を前に、「地球の上で人が生きるとは？」と考えるようになる。ボランティア経験や携わった業界の社会課題などをきっかけに、自然と人、人と人の関係性を見つめ直すため、現在の拠点へ。棚田再生、地域資源の活用を通じて、学びと気づきの場を創出。

**一般社団法人と或る農園 代表理事
株式会社まつわるエトセトラ 会長**

人と自然の境界に立ち、 足元の余白に未来を描く

私は10代の頃「学校は社会への準備の場なのに、実際は社会とつながる力を養えない」という違和感を抱えていました。高校を中退し、飲食や服飾業界に携わる中で、食や衣服の大量消費・廃棄に疑問を持ち、原材料の生まれるところを拠点にしたいと思い現在の美作市上山に移住しました。と或る農園では特別なプログラムではなく「やりたいことがある人の挑戦を全力でサポートする」ことを重視しています。与えられた環境ではなく、自らが選んだ環境でこそ本当の問いと行動が湧いてくると感じています。常に「問いを持ち続けること」を大切に、例えば「雑草＝不要なもの」ではなく「なぜここに生えたのか？」と考えることが学びや新しい問いにつながると思っています。農業、古民家改修、食文化、教育、テクノロジーなどを横断し、柔軟な活動を試みています。今後は「産まれるから育つ環境」を整えることを目指し、助産院とフリースクールの普及に取り組む予定です。単なる「先進医療や義務教育の代替」ではなく、一人ひとりに適したお産環境や学びの場を公共の仕組みとして確立することを考えます。助産院は自然分娩の選択肢を守り、地域と医療機関の連携を強化。フリースクールは、地域との関わりを通じ、子どもたちが「問い」を持ち続ける力を持続的に育める場にする。美作市を拠点に、全国へ展開するモデルケースの構築を目指しています。

2025
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
優秀賞
Excellence Award

PROFILE



井上 桂

Inoue Katsura

登山好きの両親の影響で、幼少期に自然の素晴らしさに出会う。

国際自然環境アウトドア専門学校卒業後、2007年に株式会社FEELを設立。現在、山口県内にて5つの教育施設等を管理運営している。県や市、企業等と共に、アウトドア活動が持つ力を活かし、学校教育や人材育成、社会課題の解決をめざした取組みを実践中。

株式会社FEEL 代表取締役
エコピアの森下関・深坂 所長

森と海と地域を 繋ぎアウトドアを日常に

海・山・川と豊富な自然に囲まれた山口県。私が生まれ育った山口県で、この豊かなフィールドを活用した仕事をさせていただいています。弊社は県内5つの施設を管理運営しながら、学校教育、地域政策、社会課題に関連する事業を担っています。

私たちが大切にしていることは、参加者の学びが中心であるということ。そのため、プログラムはいつもカスタム型。年間を通じて利用がある宿泊学習事業においても、一つとして同じプログラムはありません。利用者や対象者を理解することを第一に考え、彼らに合わせたオリジナルプログラムを提案し、実践しています。

また、さまざまな理由で子どもたちに体験格差があります。私たちは、障害の有無や生活環境等関係なく、全ての子どもたちが自然の中で学べる機会が必要であると考え、生きる力を育みながら楽しめる環境づくりを行っています。そのためには活動がより身近なものになる必要があり、街中にある公園や広場などにもフィールドとしての可能性があり、新たな体験の場としての価値を見出しています。

私たちの活動は、地域の人づくりでもありと考えています。アウトドアが持つ力をさまざまな角度で活かしながら、人と自然をつなげる活動を続けていきたいと考えています。



[左] コースを選択中の参加者 [右上] 公園も体験の拠点に [右下] 狭い浴槽も楽しい遊び場



PROFILE



妹尾 望

Senoo Nozomu

沖縄生まれ。幼少期から沖縄の自然の中で遊ぶ。北海道の大学でカヌー探検部に所属し、アウトドアライフを満喫。卒業後は札幌で地域振興系コンサルに従事し、その後、脱サラして沖縄で就農。結婚を機に「やんばる」へ移住し、アウトドアガイドの道へ進む。修行を経て「やんばる案内人 Tida-Smile」を設立し、自然の楽しさとリスクを伝えながら、多くの人が自然に感謝できる世の中を願い、日々ガイド業に励む。

やんばる案内人 Tida-Smile 代表
Wilderness Medical Associates Japan
アンバサダー

本気で遊び、自然に学ぶ！ アウトドア体験で未来を拓く

私の人生は、まさに「アウトドア」と言えるかもしれません。幼少期はYMCAのキャンプ指導者だった父とともに、沖縄北部「やんばる」で山歩きや川遊び、素潜り、キャンプを満喫。北海道の大地に憧れ進学した帯広畜産大学では、カヌー探検部に所属し、日本各地やニュージーランドの川をカヤックで下り、登山やスキー、キャンプに明け暮れました。在学中にはラフティングガイドやファミリーキャンプのスタッフ、小学校の水辺調査の手伝いを経験。卒業後は北海道でサラリーマンとして北海道各地で自然資源を活かした地域おこしに携わり、アウトドアの可能性を学びました。しかし、沖縄県民特有の帰郷思考に抗えず、30歳を前にUターン。祖父の畑を継ぎ、7年間野菜農家として自然と向き合いました。作物の成長、害虫と益虫の関係、天候と向き合う農業は、アウトドアとは違う形で「自然と共に生きること」を教えてくれました。現在はアウトドアガイドとして、自然の楽しさやリスク、身近な自然の魅力を伝えることをミッションに活動中。アウトドアから得た楽しさ、感動、恐怖、命の大切さ、人との出会い——その学びは無限大です。この価値を次世代に伝えることで、未来が拓かれると信じています。これからもアウトドアを通じた人づくりを、素晴らしい仲間たちと共に続けていきます。



[左] キャンプでスイカ割り [右上] 保全体験型ナイトツアー [右下] 高校生と外来種防除



2025
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
優秀賞
Excellence Award

PROFILE



谷 慶子
Tani Keiko

千葉県出身。幼少期からのキャンプ参加で自分を鍛える。大学卒業後、国際自然大学校・千葉自然学校職員として20年従事。双子を出産し復帰後、三重へ移住。2020年 windsoil を仲間と設立し地域の自然体験の場を提供。保育園・子育て支援センター勤務を経て、里山公園管理での環境保全を実践。2024年から高田短期大学非常勤講師として人づくりに関わる。様々な団体と連携し、輪を拡げるべく奔走中。

windsoil 代表
高田短期大学 非常勤講師

アウトドアで解き放て！ 和合の力で繋ぐ笑顔の伝播

移住先の亀山市は、鈴鹿山脈の麓に位置し豊かな自然環境が広がり、wind (風の人=移住者)と soil (土の人=地元住民) が混ざり合う場所です。『windsoil』を仲間と設立したのは、移住して1年後の2020年。コロナパンデミックの真っ只中でした。しかし、今だからこそ「自然の中で心を解放し、自然体でいられる仲間づくり、育ち合う地域の場づくり」が必要と、乳幼児から児童親子を中心に「豊かな感性を育むひとつづくり・多世代交流の場づくり・地域文化の智慧を学ぶ」ことを掲げスタート。5年目に入り、輪が拡がり地域と繋がる中で、有機の田んぼづくりや里山の森林整備も始まりました。生物多様性等の環境保全、高齢化や獣害によって田畑を手放す耕作放棄地の拡大、森林の荒廃などの地域課題も実感し、「自然環境を次世代に繋ぐ・地域課題に取り組む」ことも同時に大切な使命と活動が深まってきました。

「ピンチはチャンス!」。様々な課題が山積している現代だからこそ、様々な人や団体、組織と繋がりながら、自分にできる小さなことを重ね、より良い社会づくりを目指しています。保育士・幼児教諭の指導者養成校である高田短期大学ともご縁を頂き、「自然保育」について学生と共に学びを深めながら、人づくりを実践中。「和」と「感謝」を忘れずに、笑顔が拡がる取り組みをこれからも続けていきたいです。

2025
JAPAN OUTDOOR
LEADERS AWARD
奨励賞
Incentive Award

PROFILE



野田 和規

Noda Kazuki

佐賀県出身・1997年生まれ。幼少期より自然の美しさに魅せられる。愛媛大学農学部に入學するも森林だけではなく多角的な自然の観点を学ぶため1年で中退。そのあとは自然をテーマに国内外を遊学。2020年には北海道白老町に移住。現在は自然の美しさと面白さを伝えることを軸に、ネイチャーガイドや自然教育、ワークショップなど提供。音声で聞く自然ガイドをコンセプトにPODCAST番組「ノダカズキの野良歩き」「ミモララジオ」を制作。PODCASTは自然部門で1位。全体ランキングで6位を獲得。

株式会社白老ネイチャーオフィス 代表取締役

森を観る視点を作る

私が活動する北海道白老町は開拓の物語やアイヌ文化が色濃く残っており、「人間が自然とどのように関わってきたのか？」を想像しやすいフィールドです。そんなフィールドで「自然の美しさや面白さ」を多くの人に伝えることができるだろうか？ということを決めて活動しています。北海道でのガイド業や親子向け自然プログラムをやりながらも、「現地に来てもらい自然を体験することはコストが高い」「何回も同じことを喋ると自分が飽きる」ということを感じていました。

そのため都会にいながらも自然を楽しむ方法として、音声コンテンツや不定期で都市ネイチャーウォークのイベントを企画。また、都会の生態や生き物の巧みな生存方法、例えばカタツムリがコンクリートで栄養を得たり、スズメがタバコを利用したりする姿を伝えることで、都会でも自然を感じられる新たな視点を提供しています。

人間はもちろん人工的な空間さえも自然の一部である視点を持つことでより自然を身近に感じることができると思っています。自然保護を義務感からではなく、自発的に自然に興味をもち楽しみつつ守っていく人を増やすような場づくりをしたいです。

まだまだアウトドアの仕事を始めて5年目なので、先人たちの知恵を自然に限らず幅広く学んでいきたいと思っています。



【左】ガイドイベントの様子。若い世代が中心に参加してくれています。

【右上】「四季を観る」親子向けのプログラムの集合写真。北海道の施設と共同企画。【右下】目黒での都市ネイチャーガイド

ルーブリック

Rubric

JOLAでは、能力評価に使用される「ルーブリック評価」を採用し、審査を行っています。4つの評価基準を決め、さらに細分化し、評価項目を作成し、1～5の評価尺度に分け、評価表を作成しています。（以下 JOLA ルーブリック）

応募者は JOLA ルーブリックをもとにエントリーシートを記入します。その後、応募者のエントリーシートを複数の委員で評価し、書類選考を進めます。JOLA ルーブリックによって情報が共有されて、応募者へのフィードバックも行えるので、応募者の今後のスキルアップにつながります。日本におけるアウトドアでの人づくりの基準になるよう、毎年改訂を行い、進化させていきます。

4つの評価基準

1

未来につながる人づくり

直接体験&体験からの学び・
アウトドアフィールドの活用・継続性

2

人づくりの独自性

考え方・哲学・
キャラクター・実践方法

3

社会性

コラボレーション・発信・
社会への貢献

4

人づくりの技

ソフトスキル・ハードスキル・資料(道具)の
オリジナリティ・場や資源の演出・
安全に対する考えと取り組み

3つの特徴

1

アウトドアでの 人づくりの評価基準

幅広いアウトドアでの人づくりを
評価する基準です。

2

応募者の ふりかえりにも活用

希望者には評価のフィードバックを行っており、
各自のふりかえりにも活用してもらえます。

3

自身の能力を可視化

主観になりがちな「アウトドアでの人づくりの
評価」が JOLA ルーブリックによる採点で客観
的に可視化・共有化されます。



JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD

【名称】

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 2025

【主催】

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員会

【パートナー】



【サポーター】

ARC'TERYX、石井スポーツ、カシオ計算機株式会社、キャンパルジャパン株式会社、ココヘリ、SATOMACHI、秀岳荘、CHUMS、パタゴニア日本支社、株式会社前垣、mont-bell、UTSun,inc

【募集期間】

2024年10月21日(月)～11月30日(土)

【表彰式】

2025年3月19日(水)

【スペシャルアドバイザー】

岩瀬直樹(軽井沢風越学園 校長・園長)、佐藤初雄(NPO法人自然体験活動推進協議会 代表理事)、澁澤寿一(NPO法人共存の森ネットワーク 理事長)、竹内洋岳(プロ登山家 / 立正大学 客員教授 / 株式会社ハニーコミュニケーションズ所属)、速水亨(速水林業 代表 / 株式会社森林再生システム 代表取締役 / FSCジャパン副代表)、星野敏男(明治大学 名誉教授)、二宮かおる(NPO法人日本で最も美しい村連合 副会長)、三浦豪太(プロスキーヤー)

【選考委員長】

高野孝子(NPO法人エコプラス 代表理事 / 早稲田大学 教授 / 立教大学 客員教授)

【選考委員】

指出一正(株式会社ソトコト・ブランネット 代表取締役 / 『ソトコト』編集長)、曾根原久司(NPO法人えがおつなげて代表理事)、田中輝美(公立大学法人島根県立大学 准教授 / ローカル・ジャーナリスト)、成田裕(NPO法人ガイア自然学校 代表 / 一般社団法人日本アウトドアネットワーク 代表理事)、野口和行(慶應義塾大学 教授)、三浦恵美里(ミウラドルフィンズ)



ジャパン アウトドア リーダーズ アワード

CONTACT

お問合せ先

JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員会 事務局

ADDRESS 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 NPO法人自然体験活動推進協議会内

MAIL jola@cone.jp TEL 03-6407-8240 WEB <http://jola-award.jp>

